

研究発表会開催通知

(昭和 63 年 10 月 15 日～11 月 30 日)

研究会	日	時	会場	備考
設計自動化	10月28日(金)	9:00～17:00	京大	前号参照
計算機アーキテクチャ	10月31日(月) 11月1日(火)	9:00～16:45 10:00～11:45	琉球大	下記参照
文書処理とヒューマンインタフェース	11月7日(月)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
オペレーティング・システム	11月11日(金) 11月12日(土)	13:00～17:00 9:00～13:00	京大 大型計算機センター	同上
情報システム	11月15日(火)	9:30～16:30	機械振興会館	同上
知識工学と人工知能	11月17日(木)	10:00～17:00	工業技術院筑波研究センター	同上
データベース・システム	11月17日(木)	10:30～16:30	筑波大	同上
情報学基礎	11月21日(月)	13:00～17:00	機械振興会館	同上
コンピュータビジョン	11月24日(木)	13:00～17:00	KDD 上福岡研	同上
アルゴリズム	11月25日(金)	9:30～18:00	国際基督教大	同上
ソフトウェア工学	11月25日(金)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
記号処理	11月29日(火)	13:00～17:00	電通大	同上

◆ 第 65 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 13件)

(主査: 田中英彦, 幹事: 喜連川優, 長谷川隆三, 横田 実)

日時 昭和 63 年 10 月 31 日 (月) 午前 9 時～午後 4 時 45 分

11 月 1 日 (火) 午前 10 時～11 時 45 分

会場 琉球大学 工学部 会議室 (工学ビル)

(沖縄県西原町字千原 1 番地, 那覇空港よりバス: 那覇バスターミナル下車 (10 分), 那覇バスターミナルからバス: 琉球大学行き (30 分). Tel. 09889 (5) 2221 (代表))

議題 10 月 31 日 9:00～11:30 (4 件)

(1) 二進木計算機による関数型言語の並列処理

樋谷 一, 高橋義造 (徳島大・工)

〔概要〕 二進木並列計算機 Coral 68 K による関数型言語 FL の並列処理方式, およびその実行結果などについて述べる.

(2) 三次元集積回路を用いた高速並列プロダクションシステム

藤田 聡, 相原玲二, 山下雅史, 阿江 忠 (広島大・工)

〔概要〕 プロダクションシステムの並列実行モデルの分類と, 三次元 IC を用いた実現法の提案とその評価を行う.

(3) 並列処理システム一晴一のソフトウェア開発環境

神館 淳, 萩原 孝, 山名早人, 村岡洋一 (早大・理工)

〔概要〕 一晴一のソフトウェア開発環境の概念を紹介し, データフローグラフの信頼性を向上させるツールについて述べる.

(4) 並列処理システム一晴一のソフトウェアシミュレータによる評価

山名早人, 萩原 孝, 草野義博, 村岡洋一 (早大・理工)

〔概要〕 一晴一の機能レベルのソフトウェアシミュレータを用いて, 一晴一の性能評価を行う.

13: 00~16: 45 (6件)

特集: スーパーコンピューティング

(5) ベクトル計算機におけるパイプラインメモリの効果

西 直樹 (日電 C&C システム研)

〔概要〕 スーパーコンにおける並列メモリシステム構成方法, パイプラインメモリによる性能向上効果について報告する.

(6) スーパーコンピュータにおける記憶階層について

阿部 仁, 和田英夫, 石井幸一, 河辺 峻 (日立)

〔概要〕 日立 HITACS-820 システムにおける拡張記憶の位置づけおよび処理性能に対する効果について報告する.

(7) 富士通スーパーコンピュータのアーキテクチャについて

伊藤幹雄, 堀田耕一郎 (富士通)

〔概要〕 富士通スーパーコンピュータのアーキテクチャからみた開発思想について述べる.

(8) マルチベクトルプロセッサ VPP の処理方式

前田 明, 真鍋俊彦, 関戸一紀, 井上 淳, 岩佐繁明, 橋本 智 (東芝電気)

〔概要〕 ベクトルプロセッサ PU を複数台結合した並列計算機 VPP のアーキテクチャ, 処理方式について報告する.

(9) セルラアレイ型大規模並列プロセッサのアーキテクチャ

磯西徹明, 宮田裕行, 岩瀬 正 (三菱電機)

〔概要〕 画像処理を主目的としたセルラアレイ型大規模並列プロセッサのアーキテクチャについて述べる.

(10) 並列画像生成方式とそのアーキテクチャ

和宇慶康, 大宅伊久雄, 吉田隆義 (沖電気)

〔概要〕 ハイバキューブ網で, 幾何計算を行い, 専用のメモリシステムでピクセル処理を高速に行うハードウェア構成の紹介をする.

11月1日 10: 00~11: 45 (3件)

(11) SIMP (単一命令流/多重命令パイプライン) 方式に基づく「新風」プロセッサの高速化技法および性能予測

入江直彦, 玖珂守宏, 村上和彰, 富田眞治 (九大・総理工)

〔概要〕 「新風」プロセッサにおける局所データフロー実行制御法およびシミュレーションによる性能予測結果を報告する.

(12) リレーショナルデータベースプロセッサ RINDA のアーキテクチャ

速水治夫, 井上 潮, 福岡秀樹, 鈴木健司 (NTT 通研)

〔概要〕 リレーショナルデータベースの大幅な性能向上を目的とするデータベースプロセッサ RINDA のアーキテクチャを述べる。

(13) マルチ PSI における実験的負荷分散メカニズム

武田保孝, 岩山洋明, 中島 浩, 益田嘉直 (三菱電機)
近山 隆, 瀧 和男 (ICOT)

〔概要〕 並列論理型言語 KLI の実行を目的とした疎結合並列計算機の構成を示し, 動的な負荷分散の機構を提案する。

* IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆ 第 21 回 文書処理とヒューマンインタフェース研究会 (発表件数: 5 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 角田博保, 黒須正明, 首藤正道)

日 時 昭和 63 年 11 月 7 日 (月) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, JR: 浜松町下車, バス: 渋谷一東京タワー線東京タワー, 渋谷一東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) ポイント方式の平均打鍵数による評価手法について

川端信賢 (長崎総科大・工)

〔概要〕 文書処理や計算機の対話操作に必要なポイント操作を平均打鍵数で評価するためのモデルと評価手法を示す。

(2) ワープロの漢字辞書機能の優劣比較 大島章嘉 (日能総研)

〔概要〕 ワープロの漢字辞書機能の良否を, ①変換キー打鍵数, ②無意味語発生率, ③漢字無し率等により定量的に評価する。

(3) 知的フェイリングシステムのビジュアルインタフェース

木内伊都子, 藤澤浩道, 畠山 敦 (日立)

〔概要〕 人間の記憶特性を考慮し, おぼろげな記憶からでも検索を可能とするビジュアルインタフェースを試作した。

(4) Hypertext の JStar における実現

岩淵文彦, 大熊 修, 三浦 均 (富士ゼロックス)

〔概要〕 Hypertext と D.T.P の融合を目指したシステムの一実現方法と今後の方向について述べる。

(5) プレビュー用フォントの作成について 大野義夫 (慶大・情報科学研)

〔概要〕 漢字の字形の特徴を生かして, 輪郭線フォントから読みやすいドットフォントを自動的に作成する。

◆ 第 41 回 オペレーティング・システム研究会 (発表件数: 7 件)

(主査: 亀田壽夫, 幹事: 川島幸之助, 黒沢 隆, 村松 洋)

日 時 昭和 63 年 11 月 11 日 (金) 午後 1 時～5 時

11 月 12 日 (土) 午前 9 時～午後 1 時

会 場 京都大学 大型計算機センター 3 階講習室

〔京都市左京区吉田本町, JR: 京都下車, 地下鉄: 今出川下車, 市バス: 203 番農学部前下車, 徒歩 1 分. JR: 京都下車, 市バス: 特 17 番 (A 乗場) 農学部前

議 題

下車，徒歩1分。阪急河原町から市バス17番または特17番農学部前下車，徒歩1分。Tel. 075 (753) 7408)

11月11日 13:00~17:00 (3件)

(1) 2050 ワークステーションによる WGC (Work Group Computer) システム

近藤 恵，西門 隆，福岡和彦，野瀬俊郎，村田文也 (日立)

〔概要〕 複数のワークステーションで構成され，統合事務環境の下で文書，プリンタなどを共用できるワークグループコンピュータについて述べる。

(2) 並列コンピュータのプログラム分割に関する基礎考察

伊藤 勤，曾和将容 (名古屋工大・工)

〔概要〕 並列プログラムを分割する方法を述べ，この方法によって分割した場合について例示する。

(3) 研究プロジェクト総説：QA-1，QA-2 のシステム開発

柴山 潔，萩原 宏 (京大・工)，富田眞治 (九大・総理工)

〔概要〕 低レベル並列処理機能を備えたマイクロプログラム制御計算機 QA-1，QA-2 のシステム開発研究プロジェクトの生立，経過，主な成果等を，2時間にわたって，非専門家にもわかりやすく解説していただく。

* 講演終了後，QA-2 システムの見学会が行われます。

11月12日 9:00~13:00 (4件)

(4) ISO 9660 をベースにした光ディスク管理方式の検討

三木 匡，小塚雅之，青木則夫 (松下電器)

〔概要〕 CD-ROM 再生互換の追記型光ディスクの管理方式を汎用 OS に実装し，その性能評価を行った。

(5) 追記型光ディスク・アクセス法

島田恵夫 (三菱電機)

〔概要〕 汎用計算機で，主としてコード・データを扱うための追記型光ディスク用に構築したアクセス法について述べる。

(6) システム高速再開における端末無中断方式

川原洋人，柴垣 齊，仲谷 元，大石和寛 (NTT 通研)

〔概要〕 オンラインシステムにおいて，ホスト切替時に端末から見てサービス無中断に見せる手法について述べる。

(7) ケーススタディーACOS-4性能解析エキスパートシステム(EXPERFORM)

麻生川稔，白水 明，久保秀士 (日電)

〔概要〕 性能問題を解析するエキスパートシステムのプロトタイプング手法による開発とその評価について報告する。

◆ 第21回 情報システム研究会

(発表件数：6件)

(主査：伊吹公夫，幹事：岩丸良明，鷹野 澄，槻木公一)

日 時 昭和63年11月15日(火) 午前9時半~午後4時半

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議 題 9:30~12:30 (3件)

(1) データ中心型システム設計

堀内 一 (日立)

〔概要〕 データの標準化をそれによるカプセル化手法を基にソフトウェアシステムの構造を導く手法について述べる。

(2) データ中心アプローチに基づく上流工程支援

橋本恵二, 永田 謙 (富士通)

〔概要〕 要求分析からデータモデリングまでを支援する一連の実践方法論を紹介し、実適用上の有用性・課題を述べる。

(3) DD/DS を中核としたデータ中心開発

浅輪壽男, 中村隆夫 (住友スリーエム)

〔概要〕 データ・ディクショナリ/ディレクトリを中核としたデータ資源管理に基づく情報システムの開発について論述する。

13:30~16:30 (3件)

(4) データ中心のプログラム仕様記述法

橋本正明 (ATR)

〔概要〕 仕様の理解性や記述性を良くするため、データの形式の他、データが表す情報にも着目した仕様記述法を述べる。

(5) データフローを中心とした初等 SE 教育の実践

岡野寿夫, 津村泰弘 (新日鐵情報通信システム)

〔概要〕 データフロー中心の教育により、新人 SE が分析・設計の本質を早期に理解、実務可能となることを実証する。

(6) 住宅 CAD システムにおけるプロダクト・モデリング

篠田博水 (ソフト・エクセル)

〔概要〕 データ中心アプローチによる住宅 CAD システムとそのプロダクトモデリング手法について紹介する。

◆ 第 61 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 諏訪 基, 幹事: 中島秀之, 西田豊明, 原口 誠)

日時 昭和 63 年 11 月 17 日 (木) 午前 10 時~午後 5 時

会場 工業技術院筑波研究センター 共用講堂 大会議室

〔つくば市梅園 1-1-4, 常磐線 (上野発 7:54, 8:11, 8:18): 荒川沖下車, 関東鉄道バス(東口): 筑波大中央または工業技術院行き, 並木 2 丁目または工業技術院下車, 徒歩 5 分または 1 分. または, つくばセンター行き常磐高速バス (東京駅八重洲南口発 8:30): 並木大橋下車, 徒歩 12 分. Tel. 0298 (54) 5460〕

議題 **10:00~12:15 (3件)**

(1) 自然な推論による拡張世界の回復

伊藤 昭, 加藤宗子 (郵政省通信総合研)

〔概要〕 Reiter のデフォルト推論について、拡張世界が存在しない場合の原因の考察と、拡張世界回復の方法の提案を行う。

(2) 状況と推論に関する考察

中島秀之 (電総研)

〔概要〕 推論を行う場合、状況を見逃すことができない。一歩進めて状況を対象として扱う推論について考察する。

(3) 株価テクニカル分析ルールの洗練化と深い知識

後藤公一, 野村康雄 (関西大・工), 山口高平, 角所 収 (阪大・産研)

楠野 徹 (野村総研), 松本美砂子, 真田英彦 (阪大・経済)

〔概要〕 株価テクニカル分析ルールの自動洗練化戦略を検討すると共に、深い知識の枠組みについて考察する。

13 : 00~14 : 30 (2件)

(4) 意味ネットワークマシン (IXM) プロトタイプの開発

樋口哲也, 橋本博之, 半田剣一, 古谷立美, 国分明男 (電総研)

〔概要〕 IXM プロトタイプの開発状況, ソフトウェア開発環境等を紹介する.

(5) ニューラルネットワークによる最適電力負荷配分

松田 聖, 穂本能彬 (東京電力)

〔概要〕 ホップフィールドモデルによる電力負荷のコスト最小化配分の試みと同モデルの動作特性に関する考察をする.

14 : 45~17 : 00

(6) パネル討論

テーマ : 記号, その効用と限界——知識処理における記号主義——

司会 : 諏訪 基 (電総研)

パネリスト : 米盛裕二 (琉球大・文), 安西祐一郎 (慶大・理工), 新田克己 (電総研), 西田豊明 (京大・工), 山本栄一郎 (富士通研), 原口 誠 (東工大・総理工)

◆ 第68回 データベース・システム研究会

(発表件数 : 7件)

(主査 : 牧之内顕文, 幹事 : 大里博志, 清木 康, 佐藤和洋)

日 時 昭和63年11月17日(木)午前10時半~午後4時半

会 場 筑波大学第三学群 3B402教室

〔茨城県つくば市天王台1-1-1, 常磐高速バス : (東京駅八重洲口発~つくばセンター行き, 約60分) : つくばセンター下車, バス : (筑波大学中央行き) 第三学群前下車 (約10分), または, JR : 常磐線荒川沖下車, バス : (筑波大学中央行き, 約35分) Tel. 0298 (53) 5187, 0298 (53) 5163〕

議 題 11 : 00~12 : 20 (2件)

(1) 版管理と構成管理を結合した設計データ管理スキーム

北川博之, 大保信夫 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 設計データベースに必要とされる版管理と構成管理を統合的に行うためのデータ管理スキームを提案する.

(2) 動的な版選択を行うk版先読みスケジューラ

木庭 淳, 加藤直樹 (神戸商科大・管理科学)

〔概要〕 最新のk版ではなく, 必要と思われるうちからk版残すことで性能向上を目指す先読みスケジューラを提案する.

13 : 20~17 : 00 (5件)

(3) 不均一分布データに対する高速結合演算処理方式の一考察

中山雅哉, 喜連川優, 高木幹雄 (東大・生研)

〔概要〕 動的デステージング手法を用いたハッシュ結合方式について, 対象データの分布変動に対する有効性を報告する.

小特集 : データベースの分散処理技術

(4) 分散データベースシステムにおける時計サイトと先読みスケジューラを利用した並行処理方式

李 吉桂, 茨木俊秀 (京大・工)

〔概要〕 先読みスケジューラと中央時計サイトを利用すれば, 簡単な並行処理アルゴリズムが可能であることを示す.

(5) 分散データベースにおける基本方式の開発

神田基博, 根岸和義, 石川博道, 山中 治 (日立)

〔概要〕 ネットワーク型分散データベースシステムの基本方式の開発について述べる。

(6) 同報通信を指向した分散 DB 坂本明史, 斉藤邦子, 疋田定幸 (沖電気)

〔概要〕 開発中の分散データベースシステムについて, 基本的なアプローチを述べる。

(7) 関数型計算モデルに基づく並列型問い合わせ処理系の実現方式

黒沢貴弘, 清木 康 (筑波大・電子情報)

加藤和彦, 益田隆司 (東大・理)

〔概要〕 データベースおよび知識ベースを対象とした並列処理システムの実現方式および問い合わせ処理の実測結果を示す。

◆ 第 11 回 情報学基礎研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 藤原 譲, 幹事: 有川節夫, 岩野和生, 吉田郁三)

日 時 昭和 63 年 11 月 21 日 (月) 午後 1 時~5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 〔特別講演〕 対立統合概念による情報の分析 榎本 肇 (富士通)

〔概要〕 情報のライフサイクル中で, 分析を行う方法として, 対立統合概念によって行い, プロセス全体の表現法を論じる。

(2) ニューロンコンピュータによるロボットの行動制御

長田茂美, 関口 実, 吉沢英樹, 渡部信雄,

大本 隆, 浅川和雄 (富士通研)

〔概要〕 ニューロンコンピュータを小型移動ロボットの行動制御に適用し, その有効性の実証を試みたので報告する。

(3) 知的分散データベースシステム 岡宅泰邦, 原嶋秀治 (東芝)

〔概要〕 オブジェクトモデルに基づく知的分散 OS 上に構築される分散データベースシステムアーキテクチャについて論じる。

(4) パスジェネレータの自動生成によるプログラムのテスト法に関して

柳沢隆夫 (芝浦工大・工業経営)

〔概要〕 プログラムテストパスを自動的に生成するのにグラフ理論を応用する際の種々の基礎的問題を解く。

◆ 第 57 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 鳥脇純一郎, 幹事: 大田友一, 田島讓二)

日 時 昭和 63 年 11 月 24 日 (木) 午後 1 時~5 時

会 場 KDD 上福岡研究所 1 階大会議室

〔埼玉県上福岡大原 2-1-15, 東武東上線: 上福岡 (東口) 下車, 徒歩 10 分。

Tel. 0492 (66) 7423〕

議 題 (1) 多変量解析による類似図形検索法 一判別分析と主座標分析を用いて一

栗田多喜夫, 加藤俊一 (電総研), 下垣弘行 (共同印刷)

〔概要〕 図形データベースにおける類似図形の検索法として, 判別分析および主座標分析を用いた方法を紹介する。

(2) 構造線による一次元パターンの解析

和田俊和, 佐藤 誠 (東工大・精密工学研)

[概要] 構造線による一次元パターンの構造解析について論じるとともに CV への応用について探る.

(3) 移動ロボットの位置確認システム

小野口一則, 渡辺 睦, 麻田治男 (東芝総研)

[概要] 移動環境内の複数地点で目標物を教示し, この教示データを用いて移動ロボットの位置確認を行うシステムについて述べる.

(4) 図形特徴量計算のための 1 パスビデオレートアルゴリズム

依田晴夫 (日立)

[概要] ラスタ走査形撮像装置の出力信号を直接連続処理することのできる実時間図形特徴量計算方法を提案する.

(5) 柔軟性を有した並列画像処理装置 FP³ の構成及び処理形態

金子正秀, 小池 淳, 羽鳥好律 (KDD)

[概要] マルチマイクロプロセッサと分散画像メモリとから構成される, 柔軟性を有した並列画像処理装置について述べる.

(6) 見学: KDD 上福岡研究所画像通信研究室の紹介

◆ 第 4 回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 野崎昭弘, 幹事: 西関隆夫, 中村勝洋, 今井 浩)

日 時 昭和 63 年 11 月 25 日 (金) 午前 9 時半~午後 6 時

会 場 国際基督教大学 理学館 N-332 号室

[東京都三鷹市大沢 3-10, JR: 中央線三鷹駅南口下車国際基督教大行バス: 終点 Tel. 0422 (33) 3286]

議 題 9: 30~12: 00 (3 件)

(1) 木パターンマッチングアルゴリズム 平田富夫, 稲垣康善 (名大・工)

[概要] 木のパターンマッチングを効率よく行うアルゴリズムをいくつか提案する.

(2) サーチライト問題 山下雅史 (広大・工), 杉原一夫 (ハワイ大),

鈴木一郎 (ウイスコンシン大)

[概要] 単純閉領域 D と D 内に設置されたサーチライトの有限集合 L が与えられたとき, D 内を自由に移動する点を L によって検出する問題を考える.

(3) 多品種流問題における解の整数性について

永持 仁 (豊橋技科大・情報工学系)

[概要] 多品種流問題における最大流-最小カットの定理とフローの整数値性とのある種の関連性を明らかにする.

13: 00~18: 00 (6 件)

(4) Weakly k -linked graphs 岡村治子 (大阪市立大・工)

[概要] グラフ G が $4k$ -辺連結ならば G は weakly $3k$ -linked であることを証明する.

(5) ベクトルで表現された漢字パターンの塗りつぶし

浅野哲夫 (大阪電通大・工)

〔概要〕 ベクトル表現された漢字パターンをラスタスキャン型出力装置で効率よく印字するための前処理について述べる。

(6) 対応の与えられた点集合間のミニマックス近似問題について

今井桂子 (九工大・情報科学センター)

〔概要〕 平面上の対応の与えられた二つの点集合間のミニマックス近似問題を解くアルゴリズムを与える。

(7) グローバル・バスを利用した並列アルゴリズムについて

梅尾博司 (大阪電通大・工)

〔概要〕 グローバル・バスの能力およびそれを利用した並列アルゴリズムの設計について述べる。

(8) Efficient Manhattan routing in the presence of conflict cycles

B. Codenotti and P. Favati (IFI, イタリア)

〔概要〕 マンハッタンモデルでチャンネル配線を求めるアルゴリズムを与える。チャンネル幅のよい上界も得られる。

(9) ID 情報に基づく暗号鍵配送方式とその実現

岡本栄司, 田中和恵 (日電)

〔概要〕 各ユーザの氏名や住所等の ID 情報を用いて暗号鍵を配送する方法を示し, その実現方式を与える。

◆ 第 63 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 花田収悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日 時 昭和 63 年 11 月 25 日 (金) 午後 1 時半～5 時
 会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室 (所在地は前記参照)
 議 題 (1) セル制御のためのプログラミング環境

天明 崇, 長谷川雅樹 (日本 IBM)

〔概要〕 非同期・並列型プロセスの事象駆動型制御をおこなうためのプログラミング環境について述べる。

(2) 通信サービス記述を指向した図形言語

伊藤正樹, 加藤 順, 市川晴久 (NTT 通研)

〔概要〕 通信サービスを記述する図形言語を提案し, サービスの妥当性検証, CCITT 標準言語 SDL への変換を論じる。

(3) ESP を用いて開発した汎用構造エディタ SEMACS

吉武 淳 (三菱電機), 小久保岩生, 藤田正幸 (三菱総研)

梶山拓哉 (アーティフィシヤル・インテリジェンス)

坂井 公, 横田一正 (ICOT)

〔概要〕 論理型かつオブジェクト指向型言語を用い, その特徴を生かして汎用構造エディタ SEMACS を開発した。

(4) プログラムテストに用いるパズジュネレータの作成法

柳沢隆夫 (芝浦工大・工業経営)

〔概要〕 最初, ランダムにデータを選んでテストし, 次に未テストな部分にデータをふり向けるテスト法について述べる。

◆ 第 50 回 記号処理研究会

(発表件数：5 件)

(主査：中西正和，幹事：井田昌之，小川貴英，小谷善行)

- 日 時 昭和 63 年 11 月 29 日 (火) 午後 1 時～5 時
- 会 場 電気通信大学 情報処理センター (西 3 号館) 1 階 示範教室
〔調布市調布ヶ丘 1-5-1, 京王線調布 (北口) 下車 (特急停車), 北西方向徒歩 12 分, 電気通信大学西キャンパス内 (西門は甲州街道 (国道 20 号線) 下石原交差点の北 20 メートル) Tel. 0424 (83) 2161 ex. 3123, 3121〕
- 議 題 (1) HCL の開発と視覚的動作モニタ方式の提案
山本 強, 青木由直 (北大・工)
〔概要〕 小型かつ高速の CL 処理系 HCL の開発およびその上にインプリメント中の視覚的動作モニタの方式について報告する。
- (2) UtiLisp の新しい実現手法 金子敬一 (東大・工)
〔概要〕 8086系を CPU とする計算機上に UtiLisp を実現する方法を提案する。
- (3) UNIX 上で作動する mUtilisp システム
岩崎英哉, 寺田 実, 湯浅 敬 (東大・工)
〔概要〕 mUtilisp は陽な並列プロセスを持つ Lisp である。このシステムの、UNIX における構成, 実現方法等について述べる。
- (4) 最適化 PROLOG インタプリタの構成法
碓崎賢一, 打浪清一 (九工大・情報工)
〔概要〕 コンパイラの最適化手法を取り入れ, 速度とメモリ効率を向上させた PROLOG インタプリタの構成法について述べる。
- (5) Scheme コンパイラにおけるレジスタ割り付けについて
前田敦司, 中西正和 (慶大・工)
〔概要〕 ソースコード変換を用いた Scheme コンパイラにおけるレジスタ割り付けの技法について述べる。

◆ ソフトウェア工学研究会

第 64 回 研究会 (63 年度最終会) を下記のとおり開催いたします。ソフトウェア工学全般にわたり理論および、実際面からの発表を歓迎いたします。発表ご希望の方は、11 月 22 日 (火) までに、発表申込用紙 (本誌 8 月号綴込) に発表題目と 50 字以内の概要をご記入のうえ、学会事務局研究会担当までお申込みください。

日 時 昭和 64 年 2 月 2 日 (木)・3 日 (金)
会 場 沖縄県 那覇市

◆ プログラミング言語研究会

プログラミング言語研究会では、下記の要領で日本ソフトウェア科学会の関数的プログラミング研究会との合同研究会を開催します。発表ご希望の方は、11 月末日までに発表申込用紙 (本誌 8 月号綴込) に発表題目と 50 字以内の概要等を記入して、学会事務局研究会担当までお申し込みください。

日 時 昭和 64 年 2 月 10 日 (金) 10 時～17 時
場 所 筑波大学
テ ー マ 関数型プログラミング

昭和 63 年度研究賞の表彰

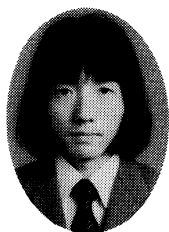
研究賞は、本学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうちから特に優秀な論文を選び、その発表者に贈られるものです。受賞者は該当論文の登壇発表者である本学会の会員とします。年齢制限はありません。

この賞は研究会活動活性化の施策に基づき、昨年度から新設され、本年度は去る 9 月 12 日に立命館大学で開催された第 37 回全国大会開会式の席上、会長から表彰状、賞牌、賞金が下記の 9 君に授与されました。

本賞の選考は、表彰規程、研究賞受賞候補者選定手続および研究賞推薦内規に基づき、調査研究運営委員会（委員長 猪瀬 博）が選定委員会となって行います。今年度は表彰対象の 9 研究会（20 研究会を奇数組と偶数組に分け、本年度は後者（昭和 63 年度新設アルゴリズム研究会を除く）、来年度は前者の隔年表彰）の主査から推薦された計 9 編の優れた論文の中から、慎重な審議を行い、受賞候補者として推薦のうえ、第 322 回理事会（昭和 63 年 6 月）の承認をえて決定されたものです。

● テキスト情報の知的検索における諸問題

[88-DB-64 (1988. 3. 15)]



秋山 幸司君（正会員）
昭和 32 年生。昭和 55 年早稲田大学電子通信学科卒業。昭和 57 年同大学院理工学研究科修士課程修了。同年富士通(株)入社。現在、(株)富士通

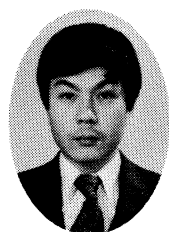
研究所勤務。自然言語理解および情報検索の研究に従事。電子情報通信学会会員。

〔推薦理由〕

構造化されたデータの取り扱いが中心であったデータベース研究において、非構造化データの内容に基づく知的な検索が新しい研究分野として注目され始めた。本論文は、その一つの端緒として、テキストベースの自然言語による知的検索を取り上げ、プロトタイプ試作とその評価に基づき、従来のデータベース自然言語インタフェースとの差異を具体的かつ明確に論じており興味深い。本研究の重要性とアプローチの独自性および実証的研究に根ざした議論は研究賞に価する。

● Implementation of Kyoto Common Lisp

[85-SYM-34 (1985. 11. 13)]



湯浅 太一君（正会員）
昭和 27 年生。昭和 52 年京都大学理学部卒業。昭和 56 年南カリフォルニア大学計算機科学科博士課程に留学。昭和 57 年京都大学数理解析研究

所助手。昭和 62 年豊橋技術科学大学講師となり現在に至る。理学博士。プログラム言語とその処理・支援系、超並列計算システムに興味を持つ。著書「Common Lisp 入門」（共著、岩波書店、昭和 61 年。英訳：“Introduction to Common Lisp”, Academic Press, 昭和 62 年）ほか。

〔推薦理由〕

ハードウェアの高速化，大容量化にともない，人工知能を始めとして数式処理など記号処理が実用的になり，その需要は年々高まりつつある．記号処理のための高速で実用的な処理系が世界的に求められている現在，優れた Lisp 処理系の出現が期待されている．Kyoto Common Lisp は，移植性に優れた処理系であり，現在国際的に大きな評価を得ている．本発表はその初期段階の報告であるが，記号処理技術およびソフトウェア技術に大きな足跡を残したといえる．

● 多国語環境における日本語処理の実現

[88-MC-49 (1988. 2. 23)]



久保田 淳市君 (正会員)

昭和 32 年生．昭和 55 年早稲田大学理工学部電気工学科卒業．昭和 57 年同大学院博士前期課程修了．同年松下電器産業 (株) 入社．現在松下電器

産業 (株) 情報システム研究所勤務．かな漢字変換，オペレーティングシステムの日本語機能および日本語文書処理方式の研究開発に従事．

〔推薦理由〕

従来のマイクロコンピュータの日本語処理は，「英語＋日本語」という地域性の高い方式で行われていた．しかし，その方式では，日本語を中国語や韓国語などと併用するわけにはいかない．

該発表は，国家間の符号系の違いを始めとして，大きな問題となっている多国語処理を，操作系 BTRON 上で実現したものである．

地道さを必要としながら，社会への影響が大であり，価値の高い研究である．

● OS/omicron 第二版とシステム記述言語 C

[86-OS-32 (1986. 9. 12)]



屋代 寛君 (正会員)

昭和 38 年生．昭和 58 年東京農工大学工学部数理工学専攻卒業．昭和 62 年同大学院工学研究科数理工学専攻修士課程修了．同年 (株) 日立

製作所入社．現在同社中央研究所勤務．在学中，オペレーティングシステム，言語処理系の研究開発に従事．

〔推薦理由〕

OS/omicron の研究は，目的とアプローチがきわめて明快であり，長期間にわたって積み上げられてきた実質的な研究である．工学的にも，日本語文字コードとして統一 2 バイト・コードを採用するなど，興味深く参考になる点が多い．本論文は，OS/omicron のシステム作りについて実感をこめて述べられた説明力のある論文である．

● 時間記号シミュレーションについて

[87-DA-40 (1987. 12. 18)]



石浦 菜岐佐君 (正会員)
昭和 36 年生. 昭和 59
年京都大学工学部情報工
学科卒業. 昭和 61 年同
大学院修士課程修了. 昭
和 62 年 1 月より京都大
学工学部助手. 論理回路

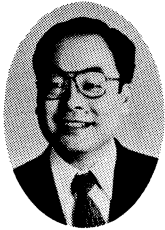
の CAD/DA の研究に従事. 電子情報通信
学会会員.

〔推薦理由〕

論理装置の設計では, クリティカルパスのタイミング検証がおこなわれる. 従来タイミン
グ検証の手法として, 論理シミュレーションの適用や静的に回路遅延を算出する方法等が使用
されている. これらは必要以上にエラーや不定値を算出し, 真のタイミングエラーが埋れ
てしまう危険性があった. 本研究は以上を改良するために, 信号の変化時刻を代数式で表現
し記号シミュレーションを適用することを提案している. 論文の特徴として以上の着眼点の
ユニークさと採用手法の新規性にあり, 今後の応用研究, 実用開発への発展が期待できる.

● ワープロ利用者の思考時間に関する統計的模型

[86-JDP-8 (1986. 9. 17)]



木村 泉君 (正会員)
1935 年生. 1960 年東
京大学理学部物理学学科卒
業. 1965 年同大学院博士
課程退学. 東京大学助
手. 東京教育大学講師を
経て, 現在東京工業大学

教授. 計算機システムのヒューマンインタ
フェースに関する研究に従事. IEEE,
ACM, 電子情報通信学会, ソフトウェア
科学会, Human Factors Society 各会員.

〔推薦理由〕

本発表は, 日本語ワープロの利用者が, かな漢字変換の結果を受け入れるか否かを決断す
る際の時間の統計的分布を三つの成分に分解し, 各成分に対応した心理過程の考察により,
利用者の思考過程を認知心理学的に説明する思考時間模型を構築したものである. 実験デー
タに基づいた理論構築, 統計的手法による明快なデータ解析, 分析結果への説得力ある解釈
等を考慮すると, まだ研究の中間段階ではあるが, 今後のヒューマンインタフェース分野の
研究に与える理論的影響力は大きく, 研究賞を与えるにふさわしい研究であると結論される.

● 仮想メモリ上での大規模線形計算

[82-NA-1 (1982. 7. 2)]



村田 健郎君 (正会員)
大正 12 年生. 昭和 20
年東京帝国大学第二工学
部航空原動機学科卒業.
昭和 26 年東京大学理学
部数学科卒業. 昭和 28
年, 同大学院理学部数学

科(関数解析専攻)修了. 昭和 31 年東京大
学工学部専任講師. 昭和 35 年助教授にて
退官. 同年(株)日立製作所入社. 昭和 58
年同中央研究所技師長にて退職. 同年図書
館情報大学教授. 理学博士. 昭和 51 年本
会論文賞受賞. 現専門は線形数値計算法.
流体力学学会会員.

〔推薦理由〕

本研究は、仮想記憶方式の汎用計算機を用いて大規模な計算を行う際に留意すべき点を示したものである。主要な点は、局所性の高いプログラムにすることによって仮想記憶のページ交換を少なくすることである。それを実現する方法をガウス消去法に対して具体的に示し、従来の方法との比較を行っている。その他、部分構造反復法など大規模な問題に対する有力な方法が述べられている。近年スーパーコンピュータの出現によって盛んに行われるようになった大規模数値シミュレーションの基礎となるすぐれた研究である。

● オブジェクト指向の概念に基づくシステム開発支援環境について
〔利用者指向の情報システムシンポジウム (1986.12.6)〕



前田 和昭君 (正会員)

昭和 36 年生。昭和 60 年慶応義塾大学工学部管理工学科卒業。昭和 62 年同学大学院工学研究科修士課程管理工学専攻修了。現在、同研究科

博士課程管理工学専攻に在学中。システム開発とその支援環境、プログラミング環境、オブジェクト指向プログラミング、マンマシンインタフェースなどに興味を持つ。ACM, IEEE 各会員。

〔推薦理由〕

情報システムの開発方法として、実世界モデルの記述を中心としたジャクソンシステム開発法 (JSD) が、ここ数年注目をあびている。本論文は JSD を基礎に、最近の成果であるオブジェクト指向アプローチとアウトサイドインアプローチを組み合わせた新しいシステム開発の方法論を提案している。

単に方法論の紹介にとどまらず、仕様記述言語、および開発支援ツールも作成し、事例による実証研究を試みている。情報システム開発方法の決定版がない現在、このような研究は貴重であり、今後の進展も期待できる研究内容である。

● 高能率情報検索システムの実現について—キーワード転置ファイルの効率的構成—
〔86-FI-1 (1986.7.24)〕



篠原 武君 (正会員)

昭和 30 年生。昭和 55 年京都大学理学部卒業。昭和 57 年九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修士課程修了。同年九州大学大型

計算機センター助手。昭和 62 年九州工業大学情報工学部助教授。現在に至る。理学博士。情報検索、帰納推論の研究に従事。人工知能学会会員。

〔推薦理由〕

本研究では対象情報の特性を解析し、キーワードの出現頻度および出現場所それぞれの分布に大きな偏りがあることと、その普遍性を検証した。具体的な応用として、大量情報のデータベースにおいて転置ファイルの構造の最適化設計にこの結果を用い、頻度別キーワード管理により、ディスク使用効率、検索速度、更新処理速度において顕著な向上が見られた。この手法は極めて独創的であり、それに必要な理論的解明を十分に行っているうえに、具体的に成果が実証されている。情報の基礎的特性を究明するための方式として一つの方向を示している。

第 36 回 全国大会学術奨励賞の表彰

第 36 回全国大会学術奨励賞は、去る 9 月 12 日～14 日に立命館大学で開催された第 37 回全国大会の席上、会長から下記 13 君に授与されました。

本賞は今年 3 月開催の第 36 回 全国大会(於慶應義塾大学日吉校舎)の発表論文を対象に、学術奨励賞委員会(委員長 石井副会長)において表彰規程にもとづき、総発表件数 1,214 件中推薦のあった 57 名の候補者の中から 23 名を選び、さらに慎重審議の結果、13 名が受賞候補者として推薦され、第 323 回 理事会(昭和 63 年 7 月)の承認をえて決定されたものです。

点集合の正方格子度判定アルゴリズムについて (4B-4)

今井 浩君 (正会員)

昭和 33 年生. 昭和 56 年東京大学工学部計数工学科卒業. 昭和 61 年同学大学院工学系研究科情報工学専門課程博士課程修了. 工学博士. 同年より九州大学工学部情報工学科助教授. 昭和 63 年電子情報通信学会篠原賞, 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞受賞. 計算幾何学, 地理情報処理, 組合せ最適化, 線形計画法など幅広い分野でのアルゴリズムの研究に従事. ACM, 電子情報通信学会, 日本オペレーションズ・リサーチ学会各会員.

確率的な連続値ニューロン・モデルである「ガウシアン・マシン」の提案 (5B-5)

秋山 泰君 (正会員)

昭和 36 年生. 昭和 59 年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業. 昭和 61 年同大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了. 現在, 同博士課程に在学中. 相磯秀夫, 安西祐一郎両教授のもとでニューラル・ネットワークのモデル及びチップ化に関する研究に従事. 電子情報通信学会会員.

SIMP アーキテクチャに基づくハードウェア・システム構成 (3C-2)

五島 龍宏君 (正会員)

昭和 39 年生. 昭和 61 年九州大学工学部情報学科卒業. 昭和 63 年同大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修士課程修了. 同年(株)東芝入社. 現在, 同社産業用電算機開発部に所属. ハードウェア開発に従事.

開放型複合データベースシステムにおけるオブジェクト指向データベース言語について (3E-6)

小島 功君 (正会員)

昭和 33 年生. 昭和 57 年京都大学工学部情報工学科卒業. 昭和 59 年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了. 同年電子技術総合研究所に入所. 現在, ソフトウェア部プログラム研究室に所属. オブジェクト指向, マルチメディアといったデータベース関連の研究分野に従事. ACM, 日本ソフトウェア科学会各会員.

並列オブジェクト指向言語 A'UM (1H-5)

吉田かおる君 (正会員)

昭和 32 年生. 昭和 57 年慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了. 昭和 59 年同博士課程中退. 同年(株)ワングコンピュータ入社. 昭和 60 年日本電気(株)入社. 同社 C&C システム研究所所属. 同年, (財)新世代コンピュータ技術開発機構出向. 現在, 同機構研究員. 計算モデル, プログラミング言語, オペレーティングシステム, 計算機ネットワーク, 並列処理の研究に従事.

意味談話理解のための知識処理 (4T-5)

木下 聡君 (正会員)

昭和 36 年生。昭和 58 年東京工業大学工学部情報工学科卒業。昭和 60 年同学大学院理工学研究科修士課程修了。同年(株)東芝入社。現在同社総合研究所情報システム研究所に所属。自然言語処理に関する研究に従事。日本ソフトウェア科学会会員。

時空間様相論理による運動の表現 (5P-8)

兼子 隆君 (正会員)

昭和 41 年生。昭和 59 年静岡県立清水工業高等学校情報技術科卒業。同年(株)日立製作所入社。昭和 61 年日立京浜工業専門学院ソフトウェア工学科。昭和 62 年横浜国立大学工学部研究生。現在、(株)日立製作所ソフトウェア工場において、オペレーティングシステムの開発に従事している。

例外のある性質継承に関する並列アルゴリズム (6P-8)

毛受 哲君 (正会員)

昭和 37 年生。昭和 60 年東京工業大学理学部情報科学科卒業。昭和 62 年同学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本電気(株)入社。同年 7 月より(財)新世代コンピュータ技術開発機構(ICOT)へ出向。同研究所第 3 研究室に所属。知識ベースに関する研究に従事。人工知能学会会員。

製鋼工程スケジューリング・システム: Scheplan (3) —制約指向インタフェース— (4Q-4)

沼尾 雅之君 (正会員)

昭和 33 年生。昭和 56 年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和 58 年同学大学院工学系研究科電子工学専門課程修士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)入社。同社東京基礎研究所に所属。論理型言語、知識工学、知的 CAD システムの研究に従事。日本ソフトウェア科学会、人工知能学会各会員。

概念階層構造とコネクショニストアプローチによる重要概念の抽出 (7R-6)

半田 剣一君 (正会員)

昭和 32 年生。昭和 56 年、東京大学工学部電気工学科卒業。昭和 58 年、同電子工学科修士課程修了。現在、電子技術総合研究所推論システム研究室勤務。人工知能の基礎分野、特に知識表現、知識獲得などの分野に興味を持つ。情報処理学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

時間記号論理シミュレータについて (3X-2)

高橋 瑞樹君 (学生会員)

昭和 38 年生。昭和 61 年京都大学工学部情報工学科卒業。現在、同学学院工学研究科修士課程情報工学専攻に在学中。矢島脩三教授の指導のもとで、論理回路の CAD/DA 技術に関する研究に従事。

シミュレーション専用マシン SP による自動テスト生成 (5Y-7)

高山浩一郎君 (正会員)

昭和 38 年生。昭和 60 年大阪大学工学部電子工学科卒業。昭和 62 年同学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了。同年(株)富士通研究所入社。システム研究部に所属。以後、テスト系列の自動生成に関する研究に従事。

理工学部系留学生のための日本語教育システムの開発について (7K-7)

島田由美子君 (学生会員)

昭和 36 年生。昭和 59 年慶應義塾大学工学部計測工学科卒業。3 年間の実務経験後、現在、同学大学院理工学研究科管理工学専攻修士課程に在学中。昭和 63 年より東京国際大学商学部副手。浦昭二教授のもとで教育工学に関する研究に従事。

情報技術標準化フォーラム 「日本語処理の統一的取り扱い」開催について

情報技術の分野では、ISO/IEC JTC 1 における国際標準化の重要性が急速に拡大しつつあり、国内外の標準化活動が活発化しております。この国際対応を担当している当学会情報規格調査会 (IPJSJ/ITSCJ) では、進展の著しいテーマについて、「情報技術標準化フォーラム」という統一表題のもと、今後年間数回のフォーラムを開催することを計画しています。

その第一回として、「日本語処理の統一的取り扱い」を取り上げることにいたしました。日本語処理は、コンピュータ利用技術の向上とともに、符号系、言語上の扱い、応用の各面において目覚ましい発展を遂げつつありますが、これらを日本語に閉じた形態ではなく、ISO/IEC JTC 1 におけるマルチオクテット言語処理の標準化に寄与する形で国際標準化を行うことが望まれます。このような国際提案を積極的に行うために、情報規格調査会では「日本語機能専門委員会」を設置しておりますが、今回のフォーラムは最近の国際提案およびそのための調査研究状況を報告し、さらに前進させるための討議を行うことを目的として開催いたします。多数の方々のご参加をお願いいたします。

日時 昭和 63 年 12 月 7 日 (水) 13:00~17:30
場所 機械振興会館 地下 2 階ホール
主催 (社)情報処理学会 情報規格調査会 (JPSJ/ITSCJ)
参加費 正会員および規格賛助員社員 6,000 円, 非会員 9,000 円, 学生会員 1,000 円
申込締切 昭和 63 年 11 月 30 日 (水) (定員 200 名になり次第締切らせていただきます)
プログラム

- あいさつ
- 総論
- 符号系
- プログラム言語における日本語の扱い
- データベース言語における日本語の扱い
- 応用における日本語の扱い
- 全体討論

(講師名は次号でお知らせします)

情報技術標準化フォーラム「日本語処理の統一的取り扱い」 参加申込書

昭和 63 年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記フォーラムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員および規格賛助員社員 6,000 円, 非会員 9,000 円, 学生会員 1,000 円

○送金方法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します。(金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

a. 現金書留 送金先: 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

(社)情報処理学会 情報規格調査会

b. 銀行振込 三菱銀行 虎ノ門公務部 普通預金 0022635

名義人 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

(社)情報処理学会 情報規格調査会 池田芳之

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書

通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてしてください (この用紙のコピーで可)

情報処理学会 第 38 回 全国大会実施要領

情報処理学会第 38 回全国大会（昭和 64 年前期）を次の要領で開催します。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

前回から講演発表申込みは本論文で行い、論文締切後、ただちにプログラム編成委員会を開催し、プログラム編成を行うことになりました。

このため、講演申込、原稿用紙の請求、論文提出、講演日時の告知などの方法が変更になっております。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しください。 一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 昭和 64 年 3 月 15 日(水)～17 日(金)

会場 中央大学理工学部（東京都文京区春日 1-13-27）

日程一覧 1. 講演発表用原稿用紙等の請求

本号 (Vol. 29, No. 10) 掲載の請求書に記入して、応募規程 IV. 1 の申込方法により請求してください。

2. 原稿用紙等の送付

請求書を 9 月 16 日(金)、9 月 30 日(金)、10 月 24 日(月)に締切り、それぞれ締切った分について事務局から、「講演発表申込書」、「論文原稿用紙」等をお送りします。

3. 講演論文等の提出

講演論文（本原稿）、「講演発表申込書」等を一括して **12 月 12 日(月)** までに、学会事務局に必着するようご提出ください。応募規程 IV. 2 参照。締切りに遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。

4. プログラム編成委員会の開催

講演論文等を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。この後、ただちに事務局から座長に依頼をいたします。

5. 講演発表者には講演日時を 1 月末日までに到着するようご通知いたします。

6. 大会プログラムを学会誌 2 月号 (Vol. 30, No. 2) に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

7. 論文集予約申込書を学会誌 12 月号 (Vol. 29, No. 12) に掲載します。お早目にご予約ください。

応募規程 I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 昭和 63 年度会費未納の会員は発表できません。
4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし、表彰対象者になりません。

Ⅲ. 講演論文該当分野

1. 情報科学一般

A. 一般

a. 哲学, b. 歴史, c. 伝記, d. その他

B. 社会

a. 規格, b. 標準化, c. 知的所有権, d. 社会問題, e. その他

C. 教育

a. 情報科学・工学の教育, b. カリキュラム, c. コンピュータリテラシ, d. CAI, e. 教育工学, f. その他

2. 基礎理論及び基礎技術

A. 情報数学

a. 形式論理, b. オートマトン理論, c. 形式言語理論, d. 計算可能性の理論, e. 計算の複雑さ, f. アルゴリズム論, g. グラフ理論, h. 組合せ理論, i. ファジー理論, j. 符号理論, k. 整数論, l. その他

B. 情報理論及び OR

a. 情報理論, b. 線形・非線形計画法, c. 動的計画法, d. 整数計画法, e. ゲーム理論, f. 待ち行列理論, g. その他

C. データ解析

a. 推定・検定, b. 確率モデル, c. 統計・確率計算, d. 多変量解析, e. その他

D. 数値計算

a. 誤差解析, b. 関数近似, c. 補間, d. 線形計算, e. 非線形方程式, f. 数値微積分, g. 常微分方程式, h. 偏微分方程式, i. 積分方程式, j. 極値問題, k. 最適化, l. 特殊関数, m. 数式処理, n. 乱数, o. その他

E. シミュレーション

a. 有限要素法, b. 境界要素法, c. 差分法, d. モンテカルロ法, e. その他

3. 人工知能及び認知科学

A. 基礎理論

a. 探索, b. 定理自動証明, c. 推論方式, d. 知識表現, e. 知識獲得, f. 非単調理論, g. 学習理論, h. コネクショニズム, i. その他

B. 人工知能システム

a. エキスパートシステム, b. ガイダンスシステム, c. エキスパートシステム作成支援ツール, d. ゲームプログラム, e. 演繹データベース, f. 知能ロボット, g. その他

C. 自然言語処理

a. 機械翻訳, b. 自然言語インタフェース, c. 対話システム, d. 形態素解析, e. 構文解析, f. 意味解析, g. 文生成, h. 談話理解, i. 文法, j. 辞書, k. その他

- D. パターン認識
 - a. 音声認識, b. 話者識別, c. 画像理解, d. 物体認識, e. 文字認識, f. リモートセンシング, g. その他
- E. 生体情報処理
 - a. 視覚, b. 聴覚, c. 神経モデル, d. ニューラルネットワーク, e. その他
- F. 感性情報処理
 - a. 心理モデル, b. 行動モデル, c. 感情モデル, d. その他
- 4. データ処理
 - A. 音声処理
 - a. 音声分析, b. 音声合成, c. その他
 - B. 画像・図形処理
 - a. 画質改善, b. 帯域圧縮, c. 符号化, d. 曲面合成, e. トモグラフィ, f. 3次元処理, g. グラフィックス, h. アニメーション, i. その他
 - C. テキスト処理
 - a. ワードプロセッシング, b. 日本語入出力, c. 文書処理, d. 卓上出版, e. フォントデザイン, f. その他
 - D. マルチメディア処理
- 5. ソフトウェア
 - A. 基礎理論
 - a. プログラム理論, b. オペレーティングシステム理論, c. データベース理論, d. 形式的意味論, e. 算法論理, f. 検証理論, g. カテゴリ理論, h. 属性文法, i. 計算パラダイム, j. プログラム合成・変換, k. その他
 - B. プログラム言語及び仕様記述言語
 - a. 手続き型言語, b. 論理型言語, c. 関数型言語, d. オブジェクト指向言語, e. 並列処理言語, f. システム記述言語, g. 数式処理言語, h. シミュレーション言語, i. 仕様記述言語, j. その他
 - C. 言語処理系
 - a. 構文解析, b. コード生成, c. 最適化, d. コンパイラ, e. インタプリタ, f. その他
 - D. ツール
 - a. エディタ, b. デバッガ, c. ベリファイヤ, d. コンパイラジェネレータ, e. ウィンドウシステム, f. その他
 - E. オペレーティングシステム
 - a. 記憶管理, b. 入出力管理, c. 障害管理, d. 通信管理, e. ファイル管理, f. ジョブ・タスク管理, g. 自動運転管理, h. 並列分散処理, i. 例外処理, j. 性能評価, k. その他
 - F. データベース・情報検索
 - a. データモデル, b. データ言語, c. データベース設計, d. 質問処

- 理, e. トランザクション処理, f. 一貫性制約, g. ファイル構成,
- h. 検索方式, i. 分散データベース, j. マルチメディアデータベース,
- k. その他
- G. プログラミング技術
 - a. データ構造, b. ガーベッジコレクション, c. ハッシング, d. ソーティング, e. サーチング, f. その他
- 6. ソフトウェア工学
 - A. 開発技術
 - a. 設計理論, b. 要求分析法, c. 仕様記述法, d. プログラミング方法論, e. プロトタイピング, f. 部品化・再利用技術, g. プログラム自動構成, h. その他
 - B. テスト・保守
 - a. プログラムのテスト・デバッグ, b. プログラム検証, c. 性能評価, d. プログラム解析, e. 保守運用管理, f. その他
 - C. ソフトウェアプロセス
 - a. プロセスモデル, b. プロセスプログラミング, c. 工程管理, d. その他
 - D. 開発環境
 - a. 構成理論, b. 分散開発環境, c. 文書化支援, d. その他
 - E. ヒューマンファクタ
 - a. マン・マシンインタフェース, b. 要員教育・プロジェクト管理, c. プログラミング行動, d. その他
- 7. ハードウェア
 - A. 基礎理論
 - a. 組合せ回路理論, b. 順序回路理論, c. 論理設計理論, d. レイアウトアルゴリズム, e. ハードウェアアルゴリズム, f. その他
 - B. 論理回路
 - a. 記憶回路, b. 演算回路, c. 制御回路, d. 誤り検出・訂正回路, e. テスト容易化回路, f. その他
 - C. デバイス
 - a. 論理デバイス, b. 記憶デバイス, c. 入出力デバイス, d. ASIC PLD, e. その他
 - D. アーキテクチャ
 - a. 汎用計算機, b. 専用計算機, c. スーパーコンピュータ, d. ワークステーション, e. 高級言語マシン, f. 非ノイマンアーキテクチャ, g. 並列アーキテクチャ, h. マイクロプログラム, i. フォールトトレランス, j. その他
 - E. 周辺・端末
 - a. 外部記憶, b. ディスプレイ装置, c. ハードコピー装置, d. 文字読取装置, e. 図形入出力装置, f. 音声入出力装置, g. その他
 - F. 設計技術及び設計自動化

- a. 方式設計, b. 機能設計, c. 論理設計, d. レイアウト設計,
e. テスト設計, f. 設計記述言語, g. シリコンコンパイラ, h. その他
- G. 開発環境
 - a. 統合化ツール, b. 設計環境, c. 設計データベース, d. その他
- H. テスト・検証
 - a. LSI テスト, b. ハードウェア設計検証, c. 性能評価, d. その他
- 8. ネットワーク
 - A. 通信技術
 - a. データ交換方式, b. 通信方式, c. 画像通信, d. トラヒック理論,
e. ネットワークアーキテクチャ, f. プロトコル, g. プロトコル検証,
h. その他
 - B. ネットワーク管理
 - a. 名前管理, b. 経路管理, c. 障害管理, d. その他
 - C. コンピュータネットワーク
 - a. WAN, b. LAN, c. 電子会議, d. 電子掲示板, e. 電子メール,
f. 分散処理, g. その他
- 9. システム
 - A. 対話型システム
 - a. 構成理論, b. 方法論, c. CAE, d. CAD, e. CAM, f. CIM,
g. CAI, h. 管制システム, i. 訓練システム, j. 意志決定システム,
k. オフィスシステム, l. その他
 - B. オンラインシステム
 - a. 予約システム, b. バンキングシステム, c. その他
 - C. 制御システム
 - a. プロセス制御, b. 数値制御, c. 通信制御, d. 産業用ロボット,
e. FA, f. その他
 - D. システム評価
 - a. 評価技法, b. 評価指標, c. 評価モデル, d. その他
- 10. 信頼性と安全性
 - A. 信頼性
 - a. 信頼性理論, b. 保全性理論, c. 信頼性評価, d. 故障解析,
e. その他
 - B. 機密保護
 - a. 暗号理論, b. 認証, c. 鍵管理, d. 鍵配送, e. セキュリティ,
f. その他
- 11. 応用
 - A. 企業等への応用
 - a. オフィス, b. 行政, c. 経営, d. 金融, e. 情報サービス,
f. 生産管理, g. 計算機センタ運営, h. 教育, i. その他
 - B. 工学等への応用

a. 航空・宇宙, b. 機械, c. 土木, d. 建築, e. 都市, f. 電気・電子, g. 計測, h. 生物, i. 物理, j. 化学, k. 原子力, l. 輸送・交通, m. 医学・歯学, n. その他

C. 芸術等への応用

a. 音楽, b. 絵画, c. 商業デザイン, d. その他

D. その他への応用

a. 自然科学, b. 社会科学, c. 人文科学, d. 障害者補助, e. その他

IV. 申込方法

1. 発表を計画された時

本号みどりのページ掲載の「全国大会講演発表用原稿用紙等請求書」に必要事項を記入して申込むこと。

2. 講演論文を提出される時

講演論文（本原稿）および講演発表申込書等を添えて申込むこと。

なお、連続発表を希望される場合は、別紙にて標題、講演者名および発表順番を明記し、申込書と原稿をまとめて送付すること。

V. 申込件数

1. 登壇発表は原則として1人1件とします。

2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です（ただし、論文集は1部）。また、別紙にて標題、発表分野を明記し、申込書と原稿をまとめて送付すること。

VI. 申込料金

1. 1件につき、1ページ論文は**6,000円**、2ページ論文は**7,000円**です。

2. 講演申込書、論文等を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。

VII. 論文提出

1. 所定の原稿用紙を申込締切順に送付しますので、**12月12日（月）**までに必着するよう提出ください。

2. 論文は日本語または英語とします。

3. 論文抄録を「学会発表データベース（第一系）、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。

4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。

5. 論文提出後の訂正は原則としてできません。

ただし、やむを得ない事情で訂正（本文の訂正に限ります）をしたい場合は、**1月18日（水）**一日（午後5時まで）に限り、学会事務局2階にて訂正を受付けます。なお、郵便、電話等による訂正はできませんのでご注意ください。

VIII. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会（プログラム編成委員会）が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの（極端な商品名の引用には注意する）。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの。（次回への応募をお薦めします）

IX. 論文集の配布

発表者には大会当日受付けにて、論文集全冊をお渡しします。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた講演者控で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間を原則とします（都合により13分間のセッションもあります）。講演中でも時間切れで打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理（読）は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

（社）情報処理学会 全国大会係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

第 38 回 全国大会講演発表用原稿用紙等請求書

1. 発表を希望する者は氏名，住所，請求部数を記入して申込むこと。返信用宛名用紙にも同様に記入のこと。
2. 原稿用紙等の送料として1組希望の場合は郵便切手170円，2組以上の場合は1組増すごとに70円添付のこと。
3. 申込みは本用紙のコピーを郵送のこと。
4. 本号掲載の実施要領をよく読んで請求してください。
5. 返信用封筒はいりません。

氏 名 _____ Tel. _____

住 所 _____

請求部数 1 ページ発表…… _____ 組請求します。

2 ページ発表…… _____ 組請求します。

(切り取らずにお申込みください)



□ □ □ - □ □

(氏名)

(住所)

情報処理学会第38回全国大会
原稿用紙在中

1 ページ発表 組

2 ページ発表 組

殿

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員（正会員，学生会員，海外会員）であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B 5 判 12 ページとする。従って英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

エ. 論文は正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

3. 応募方法と論文の取扱い

ア. 応募論文の締切りは 1989 年 8 月 31 日とする。

イ. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはしないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

ウ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なもの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

エ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

オ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

カ. 入賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

4. 表彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

5. その他

不明の事項については、本学会事務局に問合せること。

「教育における知的方法シンポジウム」開催について

社会の情報化が進み、学校や企業などでさまざまな形で教育にコンピュータが利用されるようになってきました。近年、人工知能の研究が活発になるにともなって、教育におけるコンピュータ利用の分野でも、知識による処理を基盤にした新しい試みが数多く見られるようになりました。教育はそれ自体が多様な側面を持っているために、人工知能的なアプローチにもさまざまな方向が考えられます。この時期に異なったアプローチをとる研究者が一堂に会して、たがいに意見を交換することは重要な意味があると考えます。奮ってご参加ください。

- 日 時** 昭和 63 年 11 月 10 日 (木) 9:30~18:30
場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)
参加費 正会員 6,000 円, 非会員 9,000 円, 学生会員 1,000 円
 (論文集のみ 3,000 円, 送料 400 円)
申込締切 昭和 63 年 10 月 31 日(月) (定員 150 名になり次第締切らせていただきます。)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

- セッション 1 (9:30~11:00)** 座長 有山 正孝 (電通大)
 ● テクニカル CAI の構築について
 竹本 宣弘 (工学院大), 森田 博 (日本教育システム)
 渋井二三男 (城西女子短大)
 ● 画像・音声データベースシステムの開発と利用について
 栗本郁三郎, 高遠節夫, 鈴木良弥 (木更津高専)
 ● 関数方程式解法支援システム FUNEQ
 対馬勝英, 加賀英徳, 中村初夫 (大阪電通大)
 —— 休 憩 (11:00~11:10) ——
- セッション 2 (11:10~12:40)** 座長 竹谷 誠 (拓殖大)
 ● ITS のための学生モデル生成法とそれに基づく指導戦略
 平島 宗, 中村 祐一, 上原 邦昭, 豊田 順一 (阪大)
 ● 多重知識表現と部分マッチングを用いた問題解決支援
 伊藤 紘二, 鈴木 昭二 (東大)
 ● 知的開放型 CAI に対する一考察
 柏原 昭博, 山本 米雄 (徳島大)
 —— 昼 食 (12:40~13:40) ——
- 招待講演 (13:40~14:30)** 座長 魚住 董 (沼津高専)
 ● CAI による理解の支援
 安西祐一郎 (慶大)
 —— 休 憩 (14:30~14:40) ——
- セッション 3 (14:40~16:10)** 座長 山本 米雄 (徳島大)
 ● 知的 CAI のための Building Block とその統合環境について

池田 満 (阪大), 奥畑 健司
野村 康雄 (関西大), 溝口理一郎
角所 収 (阪大)

- パーソナルコンピュータ上に構築した ICAI プロトタイプシステム

飯沼 聡 (三菱総研), 高橋 直久 (CEC)

竹内 章 (九大), 大槻 説乎 (九工大)

- スクリプトと定性的シミュレーションによる個別指導システム

渡辺 成良, 尾池 弘美 (群馬大)

——休憩 (16:10~16:30)——

パネル討論 (16:30~18:30)

- 知的 CAI の実現——開発経験者のノウハウを中心に理論から実現まで——
司会 大槻 説乎 (九工大)

「教育における知的方法」シンポジウム

参 加 申 込 書

昭和 63 年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 6,000 円 非会員 9,000 円 学生会員 1,000 円

○論 文 集 の み (3,000 円, 送料 400 円) 冊

○送 金 方 法

_____円を _____月 _____日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

a. 現金書留 (送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 シンポジウム係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 三井銀行本店 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行虎ノ門東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No.)

請求書 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通
請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください (この用紙のコピーで可)。

「マルチメディア通信と分散処理シンポジウム」開催について

標記シンポジウムに関して、下記要領でシンポジウムを開催することにいたしましたので、多数の方々のご参加をお願いいたします。

日 時 昭和 63 年 12 月 6 日
場 所 機械振興会館大ホール（地下 2 階）
参加費 正会員 6,000 円, 非会員 9,000 円, 学生会員 1,000 円
 (論文集のみ 2,500 円, 送料 400 円)
申込締切 昭和 63 年 11 月 15 日 (火) (定員 150 名になり次第締切らせていただきます)。

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

- あいさつ** 主査 松下 温
- 基調講演** (9:00~9:45)
 ・情報化社会とマルチメディア 野口 正一 (東北大)
- セッション 1** マルチメディア情報の蓄積と管理技術 (9:50~11:30)
 座長 山崎 晴明 (沖電気)
 ・マルチメディアデータベースの展望と課題 上林 弥彦, 今井 浩, 有川 正俊 (九大)
 ・オブジェクト指向アプローチによるマルチメディア DB の研究動向 佐藤 和洋 (日立)
 ・画像情報の蓄積と利用 佐藤真知子 (日本 IBM)
- 昼 食 (11:30~12:30) ——
- セッション 2** マルチメディア通信技術 (12:30~14:00) 座長 浦野 義頼 (KDD)
 大西 広一 (NTT)
 ・ISDN の現状と将来 小倉 敏行 (日電)
 ・IVDLAN によるマルチメディア通信 山口 勝好 (富士通)
 ・マルチメディアメールシステムの動向
- 休 憩 (14:00~14:15) ——
- セッション 3** ワークステーションとマルチメディア統合化技術 (14:15~16:15)
 座長 若山 博文 (NTT)
 蓮池 和夫 (KDD)
 ・テレマティークサービスとマルチメディア W.S. 大宅伊久雄 (沖電気)
 ・図形/画像処理 W.S. 坂下 善彦 (三菱)
 ・W.S. における文書処理 谷野 柁雄 (東芝)
 ・ISDN 端末

「アドバンスデータベースシステムシンポジウム」開催について

5月号本欄でお知らせしました標記シンポジウムを開催いたします。詳しいプログラムについては11月号に掲載します。なお、定員に制限がありますのでお早めにお申込みください。

日 時 昭和63年12月8日(木)～12月9日(金)
場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)
参加費 会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円
(論文集のみ3,000円, 送料400円)

申込締切 昭和63年11月25日(金)(定員150名になり次第締切ります)

プログラム

- ・基調講演「データベースシステム研究の今後の動向」 牧之内顕文(富士通研)
- ・招待講演「ソフトウェア工学のためのデータベース」 片山 卓也(東工大)
- ・招待講演「電子計算機相互運用システム」 朝倉 雄二(INTAP)
- ・サーベイ「第4世代言語の現状と将来」 池田 秀人(広島大・総合情報処理センター)
「マルチメディアデータベースシステムの現状と課題」 打浪 清一(九工大)
「CAD データベースの動向」 大保 信夫(筑波大)
- ・パネル討論「データベース高速処理」 司会 清木 康(筑波大)
- ・一般論文発表

学会誌送本先の住所等の変更届について(お願い)

勤務先, 自宅住所に異動のある方は, 必ず所定の「変更連絡届」用紙(本号末尾に添付)にて氏名, 会員番号を付し, 早速にご連絡ください。異動の受付は毎月20日締切り, 翌月号から変更となります。21日以降受付分の変更は翌々月号からとなりますのでご注意ください。

「第30回 プログラミング・シンポジウム」開催のお知らせ

標記シンポジウムを下記の要領で開催いたします。参加ご希望の方は、期日までに所要事項を申込書（コピーでも可）に記入のうえ、お申し込みください。

本シンポジウムの趣旨から、「情報処理関連分野で多くの経験のある方、またはこれに強い関心を持ち積極的に勉強されている若い新鮮な方で、特にシンポジウムにおいて有益な形で討議に参加しようという意欲のある方」の参加を希望します。

記

- 日時** 1989年1月10日（火）午前10時 受付開始（この日の昼食は用意しません）
午後1時30分 開会
1月12日（木）午後1時 散会
- 場所** 箱根ホテル小涌園（神奈川県足柄下郡箱根町二の平1297）Tel. 0460（2）4111
- 交通** 路線バス：小田原駅表口〈登山バス〉箱根町行～小涌園前 約40分
箱根湯本駅～小涌園前 約30分
タクシー：小田原駅表口～小涌園前 約30分
箱根湯本駅～小涌園前 約20分
- 参加費**（予稿集代、宿泊費を含む。カッコ内は非会員参加費）
☆ 大学院学生 23,000円（26,000円）
☆ 大学助手以上
 研究所関係者 30,000円（35,000円）
☆ 会社関係者 35,000円（40,000円）
※ 二つ以上の身分をお持ちの場合は、高い方の会費を適用させていただきます。
- 申込締切** 1988年11月30日（水）
- プログラム** 次号本欄に掲載予定
- 注）1. 参加申し込み後、やむを得ず参加を取り消される場合は、12月16日までをお願いします。取り消しの連絡のない場合は、準備の都合上、参加費を徴収させていただきます。事情による代理の参加は認めません。
2. 会場、宿泊設備の都合で、お申し込みに応じかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
3. 同一所属からの参加者数は適当にご調整ください。
4. 開催期間中の途中での出入りや、人員の交替はご遠慮ください。

「第30回 プログラミング・シンポジウム」

参加申込書

昭和 63 年 月 日

1. フリガナ
氏名 _____ 男・女

所属 _____

連絡先(〒) _____

_____ 電話 _____

2. 参加区分

	会 員	非会員
☆ 大学院学生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
☆ 大学助手以上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究所関係者		
☆ 会社関係者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

 会員番号 _____

※ 参加区分は、該当の□に×を入れてください。さらに情報処理学会会員の方は、会員番号もご記入ください。記入のない場合は、会社関係者・非会員として取扱います。

3. 送金・支払方法

a. 当日持参します。

¥ _____ 也を次の方法で送金します。(送金日 ____月 ____日)

b. 現金書留 c. 郵便振替 (東京 5-83484) d. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

銀行振込口座番号 (いずれも普通預金)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945	富士銀行虎ノ門支店 993632
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608	三井銀行本店 4298739
住友銀行東京公務部 10899	三和銀行虎ノ門東京公務部 21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会	

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書 _____ (No. _____)

通, 見積書 _____

通, 納品書 _____

請求先 _____

4. 次の各項目は部屋割の資料として使います。

- ◇ 年齢 _____ 歳・内緒
- ◇ 宿泊室は 喫煙室希望・禁煙室希望・どちらでもよい
- ◇ そのほか特に希望があれば記入してください。(必ずそのとおりにすると約束はできません)

5. 次の各項目はシンポジウムの運営の参考にします。

- ◇ 夜の自由討論の希望テーマ _____
- ◇ ポスター・マイコンデモなどの展示, 発表希望 _____

6. 送付先・問合せ先

情報処理学会「プログラミング・シンポジウム」係
106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

支 部 だ よ り

中 部 支 部

「AI の応用と将来」専門講習会

日 時 昭和 63 年 11 月 8 日 (火) 9:30~16:15
 場 所 名古屋通信ビル 2階大ホール (名古屋市中区千代田 2-15-18)
 地下鉄, JR とも鶴舞駅下車
 参 加 費 会員 10,000 円, 非会員 12,000 円(含テキスト代), 定員 100 名 (先着順)
 申込方法 はがき大用紙に, ①氏名, ②勤務先と所属, ③住所と電話番号, ④所属学会を記入し, 参加費を添えて現金書留にて下記宛て申込む。
 申込締切 10 月 25 日
 申 込 先 464 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部航空学科
 計測自動制御学会中部支部 太田祐文 Tel. 052 (781) 5111 (内 4412)

プログラム

開会挨拶 (9:30~9:45)	五十嵐伊勢美 (計測自動制御学会中部支部長)
航空宇宙における AI (9:45~10:45)	前田 宏 (三菱重工)
知識メディアワークステーション (10:45~11:45)	福島 正俊 (三菱電機)
材料設計における AI (13:00~14:00)	中島 裕生 (カヤバ工業)
LSI 設計における AI (14:00~15:00)	渡辺 正信 (日本電気)
ニューロコンピュータのロボット制御への応用 (15:15~16:15)	浅川 和雄 (富士通研)

なお, 講習会終了後, 16:30 より本欄次掲の講演会「ニューロコンピュータをめぐって」が開催されます (参加費無料)。

講 演 会

日 時 昭和 63 年 11 月 8 日 (火) 16:30~18:00
 場 所 名古屋通信ビル 2階大ホール (前掲の専門講習会参照)
 演 題 ニューロコンピュータをめぐって 杉江 昇 (名 大)
 参 加 費 無料 (参加資格は問いません)
 問合せ先 名古屋大学工学部電気工学第二学科 大西 昇
 Tel. 052 (781) 5111 (内 3309)

本講演会は 7 月 9 日に名大で開催予定でしたが, 講師に緊急な公務を生じたため, やむを得ず中止いたしました。当日大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。

講 演 会

日 時 昭和 64 年 2 月 17 日 (金) 13:15~15:00
 場 所 富山大学工学部 (富山市五福 3190)
 演 題 新形態プログラミング 二木 厚吉 (電総研)
 参 加 費 無料 (参加資格は問いません)。
 問合せ先 富山大学工学部電子工学科 米田政明 Tel. 0764 (41) 1271

見学会

- 日時** 昭和 63 年 11 月 22 日 (火) 13:30~16:30
- 見学先** 日本電装(株)幸田製作所 (愛知県額田郡幸田町大字芦谷字丸山 5)
- 13:30~14:20 会社概況説明, 映画上映
- 14:20~15:00 講演「カーエレクトロニクスの概要」
- 15:00~16:00 工場見学 (モノリシック IC 全自動生産ライン, エンジン制御
コンピュータライン)
- 16:00~16:30 質疑応答
- 交通** 東海道本線幸田駅下車 幸田駅・幸田製作所間送迎バス (迎え 13:10 頃, 送り
16:40 頃)
- 参加費** 無料 定員 60 名 (先着順)
- 申込方法** はがきに「日本電装見学会申込」と記入し, 氏名, 所属, 連絡先を明記のうえ,
下記あて送付する.
- 問合せ先** 464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部情報工学教室内
情報処理学会中部支部 Tel. 052 (781) 5111 (内 5803, 3309)

中国四国支部

支部連合大会

——昭和 63 年度電気関係学会中国支部連合大会——

- 期日** 昭和 63 年 10 月 22 日 (土), 23 日 (日)
- 会場** 鳥取大学 (鳥取市湖山町南 4-101)
- 懇親会** 10 月 22 日 (土) 特別講演終了後 会費 3,000 円
- なお, 参加希望者は「はがき」で 10 月 12 日 (水) までに申込み, 会費は当日
受付で支払うこと.
- 問合せ先** 730 広島市中区大手町 2-11-10 NHK 広島放送局技術部内
テレビジョン学会中国支部 (靱岡) Tel. 082 (247) 6161 (内 359)

九州支部

情報処理新技術講習会

標記講習会を下記の要領で開催いたします. 多数の方々のご参加をお願いします. 申込書は
8 月号本欄にあります.

- 日時** 昭和 63 年 11 月 11 日 (金) 10:00~18:00
- 会場** 九州大学筑紫キャンパス (春日市春日公園 6-1)
- プログラム** AI のアーキテクチャ 雨宮 真人 (九大)
- 自然言語の意味処理 日高 達 (九大)
- スーパーコンピュータの現状と展望 内田啓一郎 (富士通)
- Tron 概論 坂村 健 (東大)

光ニューロコンピュータシステムとデバイス技術 久間 和生 (三 菱)
 第5世代における基礎ソフトウェアの現状と課題 長谷川隆三 (ICOT)

参 加 費 会員 5,000 円 (学生 1,500 円), 一般 6,000 円 (学生 2,000 円)
 なお, 10月31日までに現金書留か, 銀行振込でご送金ください。
 福岡銀行箱崎支店 普 1272841 情報処理学会九州支部講習会

申 込 先 812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部中央計数施設内
 情報処理学会九州支部 Tel. 092 (641) 1101 (内 5985 (仲田))

本会協賛等の行事案内*

システムと制御チュートリアル講座 '88「アドバンス制御工学へのガイド・ライン」
 昭和63年11月4日(金), 9日(水), 22日(火),
 12月2日(金), 9日(金) 大阪・なにわ会館

昭和64年1月12日(木), 13日(金), 19日(木),
 20日(金), 27日(金) 東京・ダイヤモンド社

세미나「研究開発支援システムを考える」
 昭和63年11月11日(金) 東京・明治大学大学会館

セミナ「Exchange of Product Model Data—Present and Future—」
 昭和63年12月6日(火) 東京・日経小ホール

'88 センシング技術応用セミナー「ソフトなセンシング技術—AI 技法の新展開—」
 昭和63年12月8日(木)~9日(金) 大阪・住友ビル

セミナ「画像処理の基礎と応用」
 昭和63年12月12日(月)~14日(水) 東京・機械振興会館

*詳細は本号会議案内欄参照